

東光寺たより 72

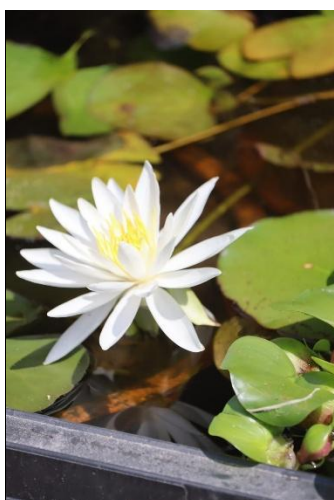
文責 東光寺英隆

白いホタルブクロも咲きました♪

当山は圧倒的に紫のホタルブクロが多いのですが境内の片隅にひっそりと白いホタルブクロが咲いている事も有ります♪ホタルブクロには「提灯花（チョウチンバナ）」という別名があります。かつて、提灯は葬儀の際に死者の足元を照らす「送り火」としての役割を担っていました。また、名前の由来の一つである「螢」も、古くから死者の魂の象徴として描かれることが多い存在です♪しかし、これらは決して「呪い」や「不吉」を意味するものではありません。むしろ、大切な人を静かに見送る、あるいは故人を偲ぶという、日本人の繊細な「祈り」の形がこの花に投影されているのです。茶花として古くから愛されてきたのも、その静寂な佇まいが精神性を高めてくれる事に他なりません。



今シーズンも水連の花が咲きました♪



花言葉は
純白・純粹
滅亡という
怖い花言葉も
併せ持つ♪

「滅亡」は、睡蓮を太陽のシンボルとしていた古代エジプト文明が、最終的に滅んでしまうことが由来とされています。また、睡蓮が復活のシンボルと考えられていた頃では、お葬式の際にミイラの上に乗せて、復活を願っていた習慣もあるそうです。古代エジプト文明を忘れないよう、いつまでも多くの人に残るようにつけられた花言葉であるとも考えられるので、由来を辿れば怖くはありませんが、どうしても滅亡=死を連想してしまうため、怖いと考える人が多いのです。ですが、滅亡というのは・・ちと考えてしまいますね♪

前住職の色紙展が開催されました♪

表記の個展を見に行く住職♪どれどれ行ってみて他の作品も見て回るのです。町内屈指の書家の窪田華堂の作品を眺め、その軸に書かれた詩の内容を調べてみました



竹
爐
湯
沸
初
紅

竹爐（ちくろ）湯沸わきて火初めて紅くれなみなり。

竹で編んだ風炉では湯が沸き、炭火が赤く燃えている。

南宋末の詩人、杜耒によるこの詩は、冬の夜の静かで心温まる情景を描き、茶によるもてなしの心を美しく表現しています。更に前後の詩からも味わい深い雰囲気を出しています♪

寒夜客來茶當酒，竹爐湯沸火初紅。

尋常一樣窗前月，才有梅花便不同。

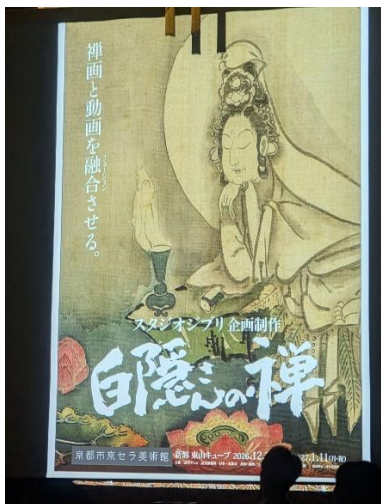
寒い夜、客が訪ねてきたので、酒の代わりに茶を出す。竹で編んだ風炉では湯が沸き、炭火が赤く燃えている。温かい茶は客人の体を温め、美しい梅と月は心を和ませる。物質的な豊かさではなく、ささやかながらも心のこもったもてなしと、自然の美を分かち合う事の大切さを説いていると感じます♪加えて日常の風景に少しの変化（梅の花）を加えるだけで、世界は全く新しく見えてくる♪素敵風光ですね♪

献茶式に参列しました♪

遠くは福山の神勝寺という禅寺におきまして表記の會に参列した住職であります♪ 献茶式とは茶道の精神である一期一会の心を故人に捧げる法會であります♪ 当日は天候にも恵まれ、法會に際し法の竹を献じた住職でした♪ 有難い一刻に恵まれた住職は更なる精進を誓うのであります♪



白隠禅師とジブリとの融合♪



法會の後は表記のお話が催され『もののけ姫』『火垂るの墓』などジブリの名作から、死生観や人生哲学などを禅的に読み解き、味わい深い一刻を感じる事が出来ました♪ 住職も若い頃から観ていたジブリの映画も禅的に捉える事によって生き方の指標になるのではなかろうか？ いやしていかねばと感じた次第でした♪

東山 魁夷の世界を訪問しました♪

隣町の大野では表記の版画展が開催され、素晴らしい世界を拝見してまいりました♪ お土産にポストカードを貰って帰ってきました♪ どうしたら、霧雨の如く優しい画を表現できるのか？ と不思議に感じました♪ 師の人となりや傑出した才能から来るものモノだろうと拝察した住職でした♪



インターミッション♪

